Weekly report

MINKABU THE INFONOID
株式会社　ミンカブソリューションサービシーズ
東京都港区東新橋1-9-1

為替週間展望＝ドル円はもみ合いながらも底堅い動きか

［９月４日からの１週間の展望］

－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－

週間高低（カッコ内は日）　8 月 28 日～ 9 月 1 日

	始　値	高　値	安　値	終　値	前週比
ドル・円	146.45	147.37(29)	145.24(1)	145.61	-0.83
ユーロ・ドル	1.0789	1.0945(30)	1.0782(29)	1.0839	+0.0043

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

国内株・金利／米国株・金利

	終　値	前週末比		終　値	前週末比
日経平均株価	32,710.62	+1086.34	日本10年債利回り	0.636	-0.025
ダウ平均株価	34,721.91	+375.01	米10年債利回り	4.108	-0.127

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

＜来週の主要経済統計等＞

４日　独７月貿易収支
　スイス第２四半期ＧＤＰ
　※米国休場（レイバーデー）

５日　日本７月勤労者世帯家計調査
　豪第２四半期経常収支
　中国８月財新サービス業ＰＭＩ
　豪中銀（ＲＢＡ）政策金利
　独８月サービス業ＰＭＩ確報値、ユーロ圏８月サービス業ＰＭＩ確報値
　英８月サービス業ＰＭＩ確報値
　ユーロ圏７月生産者物価指数
　米７月製造業受注

６日　豪第２四半期ＧＤＰ
　独７月製造業受注指数
　ユーロ圏７月小売売上高
　カナダ７月貿易収支
　米７月貿易収支
　カナダ銀行（ＢＯＣ）政策金利
　米８月サービス業ＰＭＩ確報値
　米８月ＩＳＭ非製造業景況指数
　米地区連銀経済報告（ベージュブック）

７日　豪７月貿易収支
　中国８月貿易収支
　日本７月景気動向指数速報値
　スイス８月雇用統計
　独７月鉱工業生産指数
　ユーロ圏第２四半期ＧＤＰ確報値
　米新規失業保険申請件数、米第２四半期非農業部門労働生産性指数確報値
　カナダ８月Ｉｖｅｙ購買部協会指数

８日　日本第２四半期ＧＤＰ２次速報、日本７月経常収支
　独８月消費者物価指数確報値
　カナダ８月雇用統計

－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－

【前回のレビュー】米連邦準備制度理事会（ＦＲＢ）が利上げを継続する姿勢が意識され、ドルは底堅い動きが継続しよう。一方で、日銀は緩和策を維持する意向を示しており、引き続き円は売られやすい流れが見込まれる。こうした中、ドル円は経済指標に左右されやすいものの、もみ合いながら上値を追う可能性が高いとした。

【ドル円は１４７円台まで上昇後に上昇一服】
８月２８日にドル円は１４６円台で堅調な動きを見せた。２５日のジャクソンホール会議での米連邦準備制度理事会（ＦＲＢ）のパウエル議長の講演で、金融引き締めを継続する意向を示したことで、ドルは堅調な推移を見せた。一方で、日銀による金融緩和の継続姿勢が意識されて円は売られやすくなり、ドル円は１４６．７０台までドル高円安に振れた。

ドル円は２９日のＮＹ市場で、米長期金利の上昇などから１４７．３７近辺まで上昇したものの、その後は修正安の動きを見せた。この日発表された８月の米消費者信頼感指数（コンファレンスボード）が予想を下回り、７月の米雇用動態調査（ＪＯＬＴＳ求人件数）が８８２．７万人となり、事前予想の９５０万人を大きく下回ると、米長期金利の低下とともにドル売りの動きとなり、１４５．６７近辺まで値を崩した。

３０日には８月の米ＡＤＰ雇用統計が１７．７万人となり、事前予想の１９．６万人を下回ったことや米第２四半期ＧＤＰ改定値が＋２．１%となり、事前予想の＋２．４%を下回ったことで、ＦＲＢによる追加利上げへの警戒感が後退して１４５．５６近辺まで下落した。ただ、その後、７月の米中古住宅販売成約指数が予想を上回ると買い戻しの動きから１４６円台前半まで戻りを見せた。３１日には１４６円台前半まで上昇したものの、上値を伸ばせずに失速しており、９月１日には１４５円台前半まで下落している。

ドル円は１４７円台では上値を抑えられたものの、その後は１４５～１４６円台での推移となっている。米経済指標の悪化は米長期金利の低下につながり、ドル円の下押し圧力とはなった。ただ、ドル円の大幅な下げにはつながらず、ドル円の上値を抑えるにとどまった。日銀の緩和策の継続により、円売りの流れに大きな変化はないとみられる。

米労働市場の鈍化傾向などからドルの上値はやや重い展開となっている。ただ、ドル円は一時的に売られても、長続きはしていない。また、日銀による緩和策の継続から円は売られやすい展開が続くとみられる。こうした中、ドル円はもみ合いながらも底堅い動きが見込まれる。ドル円の目先の予想レンジは、１４３．００～１４８．００円。

日米の経済指標やイベントとしては、５日に日本７月勤労者世帯家計調査、米７月製造業受注、６日に米７月貿易収支、米８月サービス業ＰＭＩ確報値、米８月ＩＳＭ非製造業景況指数、７日に日本７月景気動向指数速報値、米新規失業保険申請件数、米第２四半期非農業部門労働生産性指数確報値、８日に日本第２四半期ＧＤＰ２次速報、日本７月経常収支などがある。

【ユーロドルは２１日線を再び割り込む】
ユーロドルは１．０８割れの水準から、８月３０日には１．０９５０手前まで上値を伸ばしたものの、その後は上昇の動きは一服している。３１日には、シュナーベルＥＣＢ理事が「ユーロ圏経済に対する見通しは依然としてかなり不透明」「経済活動は明確に鈍化している、成長見通しは６月の予測より弱い」「基調的な物価圧力は引き続き頑固に高い」などと発言した。成長鈍化のもとでのインフレ対応といった困難な状況が示されたことで、ユーロは売りに傾いた。

３１日発表の８月のユーロ圏消費者物価指数速報値は、前年比、コア前年比のいずれも市場予想を上回った。コア前年比が＋５．３%と前回７月の＋５．５%から鈍化したことがユーロ売りを誘ったとの見方も出ている。インフレ自体は高止まりしている中、ユーロ売りの反応はユーロ圏の景気に対する不透明感の面が強かったとみられる。

ユーロドルは１．０７台後半から１．０９台半ばまで戻したものの、再び下げに転じている。３０日に回復した２１日移動平均線を翌日には再び割り込んでおり、戻りの動きは限定的となっている。ユーロドルはユーロ圏の景気動向を警戒しつつ、２１日移動平均線に上値を抑えられて、再び上値の重い展開が続くこととなりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、１．０６００～１．１０００ドル。

ポンドドルは３０日にドル売りの動きなどから１．２７台半ばまで上昇したものの、その後は伸び悩みを見せている。８月１６日発表の７月の英消費者物価指数はコア前年比が＋６．９％と前月から横ばいとなるなど、英国は米国やユーロ圏と比べてインフレ率が高止まりしている。英中銀（ＢＯＥ）による利上げも年内にまだ複数回想定されており、ポンドドルはユーロドルに比べて底固く、堅調な流れで推移するとみられる。ポンドドルの目先の予想レンジは、１．２５５０～１．２９００ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、４日に独７月貿易収支、５日に豪第２四半期経常収支、中国８月財新サービス業ＰＭＩ、豪中銀（ＲＢＡ）政策金利、独８月サービス業ＰＭＩ確報値、ユーロ圏８月サービス業ＰＭＩ確報値、英８月サービス業ＰＭＩ確報値、ユーロ圏７月生産者物価指数、６日に豪第２四半期ＧＤＰ、独７月製造業受注指数、ユーロ圏７月小売売上高、カナダ７月貿易収支、カナダ銀行（ＢＯＣ）政策金利、７日に豪７月貿易収支、中国８月貿易収支、独７月鉱工業生産指数、ユーロ圏第２四半期ＧＤＰ確報値、８日に独８月消費者物価指数確報値、カナダ８月雇用統計などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

＜免責事項＞
本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブソリューションサービシーズは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブソリューションサービシーズが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>
本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブソリューションサービシーズ)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。